

韓国語の副詞 ‘aju’に関する考察

—書き言葉コーパスの分析から—

安 智恵

(東京外国語大学大学院博士後期課程総合国際学研究所)

キーワード：韓国語、副詞、程度副詞、陳述副詞、修飾関係、モダリティ

0. はじめに

本稿は、韓国語の副詞のうち、‘aju’¹を考察対象としている。副詞‘aju’は多くの研究で程度副詞として分類されている。しかし、徐尙揆(1991)では‘aju’には程度副詞と様態副詞²の両面的性質があると指摘されている。本稿では、徐尙揆(1991)を再考察しつつ、副詞‘aju’がもつ程度副詞としての意味的・統語的特徴と程度副詞ではない場合の‘aju’の意味的・統語的特徴を明らかにすることを目的とする。以下、韓国語のローマ字表記は河野六郎(1979)³に倣っており、韓国語の日本語訳及び、グロス、下線、囲み線、網掛けは全て筆者による。

1. 先行研究

1.1 では辞書における‘aju’の定義を、1.2 では‘aju’の意味的・統語的特徴について述べられている先行研究をまとめる。

1.1. 辞書における ‘aju’の定義

辞書における‘aju’の定義をみてる。辞書としては『연세 한국어 사전』(延世韓国語辞典)と『표준 국어 대사전』(標準韓国語大辞典)を用いる。

『연세 한국어 사전』(延世韓国語辞典)

아주 ¹부 ① 매우. 무척. 대단히. **아주** 새 차를 사야겠다.

② 완전히. **아주** 우리는 이런 점을 **아주** 잊고 사는 경우가 많습니다.

③ 전혀. **아주** 실패를 모르는 인생이나 고통이 **아주** 없는 생활이 결코 바람직한 삶은 아니다.

¹ ‘aju’は日本語の「とても、全く、完全に」に当たる副詞である。菅野裕臣ほか共編 (1988) 『コスモス朝和辞典』参照。

² 徐尙揆(1991)は韓国語の副詞を「様態」と「陳述」に区別しているが、その区別に関する詳しい記述は見当たらない。本稿では先行研究における「様態」という用語はそのまま引用する。

³ 河野六郎(1979: 96-97)における韓国語のローマ字表記は

母音: ㅏ [a], ㅑ [ia], ㅓ [e], ㅕ [ie], ㅗ [o], ㅛ [io], ㅜ [u], ㅠ [iu], ㅡ [y], ㅣ [i], ㅘ [oa], ㅙ [ue], ㅚ [ai], ㅜㅝ [ei], ㅟ [oi], ㅠ [ui], ㅡㅣ [yi], ㅢ [iai], ㅣ [iei], ㅤ [oai], ㅥ [uei]

子音: ㄱ [g], ㄲ [gg], ㄴ [n], ㄷ [d], ㄸ [dd], ㄹ [r], ㅁ [m], ㅂ [b], ㅃ [bb], ㅅ [s], ㅆ [ss], ㅇ [ʔ, ng], ㅈ [j], ㅉ [jj], ㅊ [c], ㅋ [k], ㆁ [t], ㆁ [p], ㅎ [h]である。

④ 영원히. 영영. ¶ 그 같은 높은 동네서 **아주** 쫓아내 버려야 한다.

⑤ 어떤 일보다 더 나아가. 이왕이면. ¶ 그걸 전기로 쓸 것이 아니라 **아주** 자서전 형식으로 써 주었으면 좋겠군.

아주² [감] 남의 잘난 체하는 행동이나 말을 비웃을 때 쓰는 말.

¶ **아주**, 그렇게 말하니깐 성인군자 같군.

‘aju¹ [副] ①大變. 非常に. とても ¶ **最も**新しい車を買おう。

②完全に ¶ 我々はこのようなことを**完全**に忘れて生きていく場合が多いです。

③全然 ¶ 失敗を知らない人生や苦痛が**全然**ない生活は決して望ましい人生であるとはいえない。

④永遠に. 永久に. いつまでも ¶ 彼みたいな奴は町から**永遠**に追放しなければならない。

⑤どうせやるからには ¶ それを伝記として書くのではなく、どうせやるからには自叙伝の形式で書いてくれたらいいのに。

‘aju² [感] 他人の偉そうな顔をする行動や語をあざ笑う場合に用いられる。

¶ なんだい, そんなふうにするから聖人君子みたいね。

『표준 국어 대사전』(標準国語大辞典)

아주¹ [부] ① (형용사 또는 상태의 뜻을 나타내는 일부 동사나 명사 앞에 쓰여)

보통 정도보다 훨씬 더 넘어선 상태로. ¶ 이번 시험 문제는 **아주** 쉽다.

② (동사 또는 일부의 명사적인 성분 앞에 쓰여) 어떤 행동이나 작용 또는 상태가 이미 완전히 이루어져 달리 변경하거나 더 이상 어찌할 수 없는 상태에 있음을 나타내는 말. ¶ 홍수로 마을이 **아주** 없어졌다.

아주² [감] 남의 잘난 체하는 말이나 행동을 비웃는 뜻으로 하는 말.

¶ **아주**, 너 갑자기 어른이 된 듯이 얘기하는구나.

‘aju¹ [副] ① (形容詞または状態の意を表す一部の動詞や名詞の前に用いられ)普通の程度より遥かに超えた状態で ¶ 今回の試験問題はとても易しい。

② (動詞または一部の名詞的成分の前に用いられ)ある行動や作用または状態が完全に成して、変わってしまったかこれ以上どうしようもない状態にあることを表す語 ¶ 洪水で町が**完全**に無くなった。

‘aju² [感] 他人の偉そうな顔をする語や行動をあざ笑う意味で用いる語

¶ なんだい, お前急に大人になったように話すなんて。

‘aju は副詞と感嘆詞として用いられている。感嘆詞としての‘aju は主に文頭に用いられ、意味的に皮肉なニュアンスが含まれている。本稿では感嘆詞‘aju は考察対象にしていないため、用例抽出において文頭に置かれ、かつ感嘆詞として用いられている‘aju は除外する。

1.2. ‘ajuに関する先行研究

‘ajuに関する研究として、韓国語の程度副詞の内、類義語程度副詞の形態・意味・構文論

的特性を分析している유준희(2006)と、‘ajuの程度副詞と様態副詞として文法的特徴について考察している研究である徐尙揆(1991)を取り上げる。

유준희(2006)は‘ajuを「絶対的程度副詞」と分類⁴し、“매우(mai‘u, とても)、몹시(mobsi, ひどく)、너무(nemu, あまりにも)”の類義語であると述べている。유준희(2006)では‘ajuを‘aju1、‘aju2、‘aju3に分けて考察を行っている。‘aju1は形容詞の前に用いられ、程度を強化し、“매우(mai‘u, とても)”と置き換えられる。‘aju2は動詞の前に用いられ、“매우(mai‘u, とても)”と置き換えられない。‘aju3は話者の皮肉な語調を表し状況的意味だけを持つ。以下、‘ajuの形態論的・意味論的・構文論的特性をまとめる。

・形態論的特性

- ① 助詞と結合しない。
- ② ‘aju1は“‘aju‘aju”のように重複され、被修飾語の程度性をもっと強化する。
- ③ ‘aju2、‘aju3は重複できない。
- ④ ‘aju3は話者に皮肉な感情を表す際用いられるが、このような場合“‘ajju、‘ejju”のような異形態⁵が用いられる。

・意味論的特性

- ① ‘aju1の意味—副詞‘ajuの基本的な意味で被修飾語の程度を強化する。普通の程度を遥かに超えている状態を修飾し、“매우(mai‘u, とても)、무척(muceg, 非常に)、대단히(daidanhi, 非常に)”の意味を表す。
- ② ‘aju2の意味—‘aju1の派生的意味で、“완전히(‘oanjenhi, 完全に)、전혀(jenhie, 全く)、영영(‘ieng‘ieng, 永遠に)”のような意味を表す。
- ③ ‘aju3の意味—あざ笑ったり皮肉な語調を表す。他の語と置き換えることが出来ない。

・構文論的特性

- ① ‘aju1は被修飾語の「程度性」が高いことを表す。この際‘ajuは「‘aju+形容詞/形容詞句」、「‘aju+動詞/動詞句」、「‘aju+名詞」、「‘aju+副詞」という構文で用いられる。
- ② ‘aju2は、“매우(mai‘u, とても)、몹시(mobsi, ひどく)”に置き換えられない特徴がある。一部の動詞または名詞的成分の前に置かれ、ある行動や作用または状態がすでに完了し、変更することができないという状態を表す。つまり、動作の完了を表す。

⁴ 유준희(2006)は程度副詞を「絶対的程度副詞」と「相対的程度副詞」に二分し、それぞれの類義語の形態・意味・構文論的特性について考察している。「絶対的程度副詞」とは被修飾語との結合において他の要素と関係がない程度副詞であり(유준희 2006: 18)、「相対的程度副詞」は前後の文脈によって把握されるある基準に対する比較の結果を表す性格が強い程度副詞である(유준희 2006: 92)。

⁵ 유준희(2006)の用語をそのまま引用。

- ③ ‘aju3 は状況依存的であるため、特定の被修飾語がなく、比較的文中で位置が自由である。肯定文では用いられるが、否定文・命令文では用いられない。

次に、徐尙揆(1991)の副詞‘aju の「程度」と「様態」の意味に関する考察をみてみよう。徐尙揆(1991)は‘aju が修飾する対象との意味的關係から‘aju の「程度」と「様態」について考察を行っている。以下、徐尙揆(1991)の研究をまとめる。

・いわゆる<形容詞修飾>の場合

‘aju が形容詞と共起する場合、「様態」より「程度」の意味が圧倒的に目立って表面化する。形容詞の否定形と共起する用例はなく、“-e ‘issda (-ている)” の形をとる形容詞と共起する場合、「程度」の意味で用いられる。

- (1) 맥박은 어때? 아주 느려요. 《소설 301》

「脈搏はどう？とても鈍いです。」

徐尙揆(1991: 18)

- (2) 그녀는...대견스러운지 아주 기분이 좋아 있었다. 《엑스 76》

「彼女は殊勝に思えたのかとても気分がよくなっていた。」

徐尙揆(1991: 19)

形容詞に状態の変化の意味が強く現れる場合、「様態」の意味が相対的に強くなると述べている。例(3)のように「完全に(そんな状態になったのではない)」という意味で用いられる場合に、‘aju は形容詞に新しく与えられた変化の意味に注目しつつそれを量的に把握しながら、様態副詞のような用法に近付いていると説明している。

- (3) 아주 {어려운 / 틀린} 건 아니다. 노력하면 더 나아질 수도 있다.

「完全に {難しくなった / 駄目になった} のではない。努力すればもっとよくなることもある。」

徐尙揆(1991: 20)

・いわゆる<動詞修飾>の場合

‘aju が動詞と結合する場合、「程度」と「様態」の意味の張り合いが最も激しくなる。‘aju が動詞を修飾し、「程度」の意味を表す場合は、“-jida(-くなる)、-hada(-がる)” の補助動詞によって派生される。主に変化や心理などを表す動詞、または“形容詞+bo‘ida(見える)”などと共起した場合、「様態」の意味は出ず「程度」の意味のみが表面化する傾向があると述べている。

- (4) a. 절차도 예전같지 않고 아주 쉬워졌습니다.

「手続きも昔とは違ってとても易くなりました。」

b. 아내는...자신이 아주 초라해 보인다고 여기는 눈치였다.

「妻は...自分がとても衰えに見えると思っている様子だった。」 徐尙揆(1991: 23)

動詞と結合し、「様態」の意味が強くなる場合、‘aju は命令文・勧誘文で自由に用いられる特徴がある。このような場合、‘aju は、何らかの動作が二度と繰り返されることなく完全に終わってしまうという意味で用いられる。従って、‘aju の修飾対象には、何らかの動作・行為の終わり・完結・完了を示す動詞が最も頻繁に現れる。

(5) 아주 오늘 날을 {잡자 / 잡아라}. 《朝鮮 178》

「きっぱりきょう{日を決めよう / 決めなさい}。」 徐尙揆(1991: 25)

・いわゆる<存在詞修飾>・<名詞修飾>・<副詞修飾>の場合

‘aju が存在詞を修飾する場合、「程度」の意味が強く現れ、「様態」の意味としては殆ど現れない。‘aju が「程度」の意味を表す場合、“‘issda(ある/いる)”とは共起できず、もっぱら“‘ebsda(ない)”としか共起しないと述べている。

‘aju が名詞を修飾する場合も、「程度」の意味が強く現れる。「様態」の意味が表面にでることは難しいが、否定文に用いられる場合には「様態」の意味が強くなると述べている。

(6) 이건 아주 항복은 아니다.

「これは、完全な降伏ではない。」 徐尙揆(1991: 39)

‘aju が副詞を修飾する場合、‘aju は普通に程度副詞として機能するという。‘aju の修飾を受ける副詞は様態副詞であり、時間副詞や場所副詞も修飾する。このような場合、‘aju は主に「程度」の意味で用いられ、「様態」の意味では用いられないと述べている。

(7) a. 아주 {간혹 / 가끔} 집에 들르곤 했다. 《가득 38》

「とても{時折 / 時々}家に立ち寄ったりしていた。」

b. 아주 멀리서 문 닫히는 소리. 《사랑 53》

「とても遠くから門が閉まる音。」

徐尙揆(1991: 48-9)

1.3. 先行研究のまとめ

以上、辞書における‘aju の定義及び程度副詞の下位分類においての‘aju の位置、‘aju に関する研究についてみてみた。先行研究において、以下のような問題点を指摘することができる。

- 유춘희(2006)は‘aju をその意味によって‘aju1, 2, 3 に分け、考察を行っているが、‘aju1

については程度副詞であると認めているものの、‘aju_{2,3}’についてこれらがどのような副詞であるかに関する詳しい記述が見当たらない。

- 徐尙揆(1991)は‘aju’の両面性についての最も詳しい研究である。しかし、程度副詞と様態副詞の判断基準が修飾を受ける語との意味的關係に偏っており、統語的観点からの詳しい考察は行われていない。さらに、被修飾語の品詞分類が曖昧であるという問題点もある。

このような点を踏まえ、本稿では大きく程度副詞‘aju’とそれ以外の‘aju’に二分し、程度副詞としての意味や特徴、程度副詞ではない場合の意味や特徴について考察していく。

2. 研究方法

2.1. 用例抽出

用例の抽出において、국립국어연구원(2010)の『세종말뭉치 2010 배포판(世宗コーパス 2010 配布版)』を用い、用例の検索においては꼬꼬마 세종 말뭉치 활용 시스템(ココマ世宗コーパス活用システム、以下 KKMA)を用いる。KKMA から得られた‘aju’の用例は全 6200 例であり、その内書き言葉が 5632 例、話し言葉が 568 例である。

今回の調査では書き言葉資料を中心に考察を行い、用例収集において地の文と会話文を分け、地の文のみ扱う。KKMA の検索から用例が出た順番で、地の文 300 例を考察対象とする。

2.2. 分析方法

서상규(1991)における程度副詞の下位分類をみると、「評価性が強い程度副詞」と「様態性が強い程度副詞」の二つの‘aju’があることが分かる。本稿では先行研究の記述を参考にし、研究方法においては、以下の順番で分析を行う。

(ア) ‘aju’が修飾する成分を品詞別に分類する。유준희(2006)によると、‘aju’が程度性を表す場合、「形容詞、動詞、副詞、名詞、存在詞」の前に置かれるという記述を参考にし、被修飾語を品詞別に分類する。

(イ) 被修飾語と‘aju’との意味關係から程度副詞‘aju’を取り出す。‘aju’が程度性を表す場合、“매우(mai‘u, とても)、몹시(mobsi, ひどく)”と置き換えられるが、程度性を表さない場合は置き換えられないという記述から程度副詞‘aju’を取り出す。程度副詞‘aju’が表す意味や統語的特徴について考察する。

(ウ) “매우(mai‘u, とても)、몹시(mobsi, ひどく)”と置き換えられない‘aju’はどのようなものなのか、その意味と統語的特徴について分析を行う。

以上の順で副詞‘aju’に関する意味・統語的考察をしつつ、書き言葉における‘aju’の特徴を明らかにしていく。

3. 考察

‘aju’が修飾している被修飾語を品詞別に分類した結果及びその品詞別に程度副詞“mai‘u (とても)、mobsi (ひどく)”と置き換えられる‘aju’とそれ以外の‘aju’を分類した結果を以下の表にまとめて示す。

表 1. 被修飾語の品詞別分類及び用例の内訳

品詞	程度副詞‘aju	程度副詞ではない‘aju	判断が曖昧な‘aju	合計
形容詞	172 例	0 例	5 例	177 例
副詞	63 例	7 例		70 例
動詞	6 例	13 例		19 例
名詞	22 例	0 例		22 例
存在詞	4 例	8 例		12 例
合計	267 例	28 例	5 例	300 例

以下、程度副詞‘aju’とそれ以外の‘aju’の意味・統語的特徴についてその品詞別に用例が多い順で考察していく。

3.1. 程度副詞として用いられる ‘aju’の意味・統語的特徴

表 1 をみると、程度副詞‘aju’は形容詞を最も多く修飾し、次いで他の副詞や名詞を修飾することが分かる。程度副詞‘aju’が被修飾語を修飾する際、品詞別にどのような特徴があるのかについてみていく。

3.1.1. 形容詞修飾の場合

‘aju’が形容詞を修飾する場合、“mai‘u (とても)、mobsi (ひどく)”などの程度副詞と置き換えられ、被修飾語の程度を強くする意味で用いられる。主に‘aju’は形容詞の直前または「連体形+名詞」の前に置かれ、普通の程度を遥かに越えている状態を修飾する(例 8, 9)。

- (8) go‘ir-ddai ha-n ban‘i-ess-den mijin‘i-nyn junhaggio
 高校-1-時 一つ-ATTR クラス-COP-PAST-REC.ATTR PSN-TOP 中学校
 ddai-bute na-rang **‘aju** cinha-iss-da [BRIO0143]
 時-ABL I.PRN-COM 親しい-PAST-IND

「高1の時、同じクラスだったミジンは中学校の時から私ととても仲が良かった。」

- (9) gyri^{go} gabjagi nai meri ‘ui-‘eise **‘aju**
 そして 急に 1.PRN.POSS 頭 上-LOC
 kedara-n bimieng sori-ga dyrri-ess-da [BRE0306]
 大きい-ATTR 悲鳴 声-NOM 聞こえる-PAST-IND
 「そして急に私の頭の上でとても大きい悲鳴の音が聞こえた。」

例(10)の “‘aju geri-ga men(とても距離が遠い)” は “geri-ga ‘aju men(距離がとても遠い)” のように、いわゆる二重主語の構文では、‘aju は形容詞の直前ではなくその移動が自由であることが分かる⁶。

- (10) ‘uemhor-‘yn **‘aju** { geri-ga me-n ji‘ieg-‘yr} bic-‘yi
 ワームホール-TOP 距離-NOM 遠い-ATTR 地域-ACC 光-GEN
 sogdo-boda bbarri tonggoaha-r su ‘iss-nyn sigonggan-‘yi
 速度-より 早く 通過する-ATTR BN. ある-ATTR 時空間-GEN
 jiryngir-‘i-ra ha-r su ‘issda [BRAA0013]
 近道-COP-QUOT する-ATTR BN ある-IND
 「ワームホールはとても {距離が遠い二つの地域} を光の速度より早く通過することができる時空間の近道だと言える。」

徐尙揆(1991)は‘aju の用例の中には、形容詞の否定形と共起している用例が見つからなかったと述べられている。今回のコーパス調査でも、形容詞の否定形と共起し、なおかつ程度を表す用例は見つからなかったが、インターネット上で以下のような用例がいくつか見受けられた。以下に例を挙げておく。

- (11) gengang-‘ei **‘aju** joh-ji‘anh-‘yn ‘ymsig cikin⁷
 健康-ALL 良い-NEG-ATTR 食べ物 チキン
 「健康に非常に良くない食べ物チキン。」

このような場合の‘aju は「何よりも最も健康に良くないものはチキンである」と良くないことを強調する働きをしていると思われる。

3.1.2. 副詞修飾の場合

次に多く表れた用例は‘aju が他の副詞を修飾する場合である。最も多く現れた他の副詞は

⁶ 徐尙揆(1991:19)を参照。

⁷ 2012年10月23日韓国インターネットサイト www.naver.com で “아주” を検索キーワードとして検索。ブログ blog.naver.com/rladmsalxla/100169990533

“jar (よく)、cencenhi (ゆっくり)” や形容詞から転成された状態副詞で、全 62 例の内 49 例表れた。

- (12) gynie-nyn ganbam-‘ei jam-‘yr **‘aju** jar ja-ss-da [BRE00304]
 3.PRN-TOP 昨夜-ALL 眠り-ACC よく 寝る-PAST-IND
 「彼女は昨夜とてもぐっすり眠れた。」

- (13) sarang-‘yr ha-miense **‘aju** senmiengha-gei je-ryr
 愛-ACC する-CVB 鮮明だ-ADLZ 1.PRN-ACC
 bicu-nyn ge‘ur-‘yr hana ‘ed-‘ess-sybnida [BRBF0260]
 照らす-ATTR 鏡-ACC 一つ 得る-PAST-HON.IND
 「恋をしながら、とても鮮明に私を照らしてくれる鏡をひとつ貰いました。」

副詞‘aju は状態副詞を自由に修飾することができるが、程度副詞の修飾においては制限的である。今回の調査で、‘aju が修飾できる程度副詞は“jogym (少し)” しか表れていない。‘aju は程度が高く、なおかつ比較性がある副詞“gajang (一番)、huerssin (遥かに)” などを修飾できないと思われる。なぜなら、‘aju は被修飾語の程度を「普通より遥かに越える」と程度を高くする働きをし、比較する対象がない状態を表す。従って、‘aju とその意味が同様である副詞の修飾はできないと思われる。また、数は少ないが例(15)のように時間副詞のうち、「時の頻度・反復性を表す副詞(최현배 1937)」を修飾する用例も得られた。

- (14) na-‘yi ja‘a-ga k-e ga-nyn sori-ryr na-nyn dyr-‘yr
 1.PRN-GEN エゴ-NOM 大きい-CVB 行く-ATTR 音-ACC 1.PRN-TOP 聞く-ATTR
 su ‘issda mai‘ir **‘aju** jogym-ssig jogym-ssig [BRIO0143]
 BN ある.IND 毎日 少しずつ 少しずつ
 「私のエゴが大きくなっていく音を私は聞くことができる。毎日とても少しずつ、少しずつ。」

- (15) ‘iren goanggieng-‘yn se‘ur sinai gosgos-‘ei giocar-‘eise
 このような 光景-TOP ソウル 市内 あちこち-GEN 交差点-LOC
‘aju jaju bo-r su ‘issda [BRAB0022]
 しばしば 見る-ATTR BN ある.IND
 「このような光景はソウル市内のあちこちの交差点で非常に頻繁に見られる。」

3.1.3. 名詞・動詞・存在詞修飾の場合

‘aju が名詞を修飾する場合、‘aju は程度副詞としての働きをする。コーパスから得られた用例は全て程度副詞としての‘aju であり、その内 11 例は時間・空間を表す名詞である。‘aju

特に	1960-年代-COM	1970-年代-ALL-TOP	高い-ATTR	計電算機-COM		
mini-kempiute	gisur-‘yr	jibaiha-‘iess-‘ymyro	kempiute-ryr	sa-r	su	
ミニ-パソコン	技術-ACC	支配する-PAST-CVB	パソコン-ACC	買う-ATTR	BN	
‘iss-nyn	gogaig-‘i	‘aju	jeihan-doi-‘e	‘iss-‘ess-go	ddarase	
ある-ATTR	顧客-NOM		制限-PASS-CVB	ある-PAST-CVB	従って	
‘ieng‘eb-bimir-‘yn	kempiute	gisur-‘yr	bohoha-nyn	jung‘ioha-n		
営業-秘密-TOP	パソコン	技術-ACC	保護する-ATTR	大事だ-ATTR		
sudan-‘i-‘essda	[BRBG0273]					
手段-COP-PAST.IND						

「特に 1960 年代と 1970 年代には高い計算・電算機とミニパソコンがパソコン技術を支配していたので、パソコンを買える顧客がとても制限されており、従って営業上の秘密はパソコン技術を保護する重要な手段だった。」

‘aju が存在詞を修飾する用例をみてみよう。程度副詞として用いられ、存在詞を修飾する用例は僅か 4 例しか現れていない。その 4 例の特徴は副詞‘aju が存在詞“‘issda (ある/いる)”を直接修飾することはできず、「‘aju + 抽象名詞 + 存在詞」の形式で‘aju はコンピュータ文と同じく存在文全体を修飾する。今回の用例では、“bagjingam (迫真感)、johoa (調和)、syrir (スリル)、‘uengi (元気)”のような抽象名詞が現れた。以下に例を挙げておく。

(20)	jigym	sainggagha-i	bo-mein	gyri	daidanha-n	‘ir-do	‘ani-go
	今	考える-CVB	みる-COND	そんなに	重要だ-ATTR	こと-EMPH	NEG-CVB
	gyrehgei	‘iersimhi	sur-‘yr	masie-‘ia	ha-iss-den	ggadarg-do	
	そんなに	一所懸命	お酒-ACC	飲む-EMPH	する-PAST-REC.ATTR	理由-EMPH	
	‘ebs-‘ess-jiman	gy	dangsi-‘ei-n	‘aju	syrir-‘iss-‘ess-go	narymdairo	
	ない-PAST-CVB	その	当時-ALL-TOP		スリル-ある-PAST-CVB	自分なりに	
	simgagha-iss-den	ges	gatda	[BRIO0143]			
	深刻だ-PAST-REC.ATTR	BN	ようだ.IND				

「今考えてみるとそんなに大したことでもなかったし、そんなに一所懸命お酒を飲む理由もなかったが、その当時はとてもスリルがあつて、自分なりに深刻だったようだ。」

3.2. 程度副詞以外の ‘aju’ について

副詞‘aju が程度副詞以外の働きををすると思われる用例は 33 例しか現れていない。その用例の数は少ないが、程度副詞以外の‘aju はどのような意味で用いられているのかに焦点を当て、考察していく。

まず、一番用例の数が多かった動詞修飾の場合からみてみよう。程度副詞ではない‘aju は、“mai‘u (とても)、mobsi (ひどく)”と置き換えることはできず、“oanjenhi (完全に)、jenhie (全

く)”と置き換えることができる。つまり、유준희(2006)で述べられている‘aju2に当たる。以下に用例を挙げておく。

- (21) gynie-nyn hie-ryr mur-‘ess-da gosaing-‘yr ha-nyn gim-‘ei
 3.PRN-TOP 舌-ACC 噛む-PASS-IND 苦勞-ACC する-ATTR BN-ALL
 ‘aju ha-iberi-ja-go sainggagha-iss-da [BREQ0080]
 する-ASP-CHR-CVB 考える-PAST-IND

「彼女は舌を噛んだ。苦勞するついでに全部やっ~~て~~しまおうと考えた。」

- (22) ‘abeji-nyn nai-ga gasna-n sije-‘ei gohiang-‘yr ddena-ss-daga
 お父さん-TOP 1.PRN-NOM 幼い-ATTR 時-ALL 故郷-ACC 離れる-PAST-CVB
 ‘aju dor-‘a-‘o-n ges-‘yn haibang jen hai-‘iess-da [BREQ0296]
 帰ってくる-ATTR BN-TOP 解放 前 年-PAST-IND

「お父さんは私が赤ちゃんの時、故郷を離れたが、完全に帰~~っ~~てきたのは解放前の年だった。」

‘aju が動詞を修飾する場合、その形態的特徴は、まず、例(21)のようにある動作を完全に完了させる表現 “-‘a/‘e berida (-してしまう)” が用いられる動詞が‘aju の修飾を受けるということである(全 13 例の内 3 例)。さらに、“-‘a/‘e berida (-してしまう)” の文末形式が「～しよう」という話者の意志を表すモダリティと一緒に用いられることから、‘aju は文末形式との関係がある陳述副詞としての働きをすると考え得る。また、例(22)のように “dor-‘a-‘oda (戻ってくる)” や “dor-‘agasida(お亡くなりになる)” のように「動作性」と「完了性」がある動詞をよく修飾している。このようなことから、陳述副詞としての‘aju は「動作性」と「完了性」がある動詞を修飾し、意味的には「完全に、全部」の意味で用いられ、意志を表す文末形式と共起しうることが明らかになった。

次に、存在詞を修飾する際の‘aju についてみてみよう。程度副詞‘aju の場合、「抽象名詞 + 存在詞‘issda」の形式を修飾するが、存在詞 “‘issda (ある / いる)” を直接修飾することができなかった。しかし、程度副詞ではない‘aju の場合、存在詞 “‘ebsda (無い)” を直接修飾できる。存在詞 “‘ebsda (無い)” が用いられている文の特徴は “‘ebs-nyn ges-‘yn ‘anida(無いわけではない)” のような断言の文末表現や “‘ebda-go-nyn harsu-‘eb-‘yr ges-‘ida(無いとは言えないだろう)” のような可能性の推測の文末表現と共起することである(例 23, 24)。

- (23) murrn gongsang-‘ina mangsang-‘yi him-‘yro ssi-‘eiji-nyn
 もちろん 空想-や 妄想-GEN 力-INS 書く-PASS-TOP
 soser-‘i ‘aju ‘ebs-nyn ges-‘yn ‘anida [BRHO0402]
 小説-NOM ない-ATTR BN-EMPH NEG.IND

「もちろん空想や妄想の力で書かれる小説が全くないわけではない。」

- (24) ‘emeni-‘yi tas-do **‘aju** ‘ebsda-go-nyn ha-r su ‘ebs-‘yr
 お母さん-GEN せい-EMPH 無い-CVB-TOP する-ATTR BN ない-ACC
 ges-‘ida [BRE00296]
 BN COP.IND

「お母さんのせいが全くないとは言えないだろう。」

‘aju が他の程度副詞や状態副詞、時間副詞を修飾する際は、程度副詞としての働きをし、被修飾語の「程度」を表す。程度副詞ではない場合の‘aju も程度副詞や状態副詞を修飾している。しかし、被修飾語との意味的關係からその意味は例(25)-(27)のように、程度の意味は薄くなる。例(25)は「すっかり忘れている状態」を、例(26)は「放置しておいた状況」を、例(27)は「結果的に何もない状態」を‘aju が強くする働きをしていると思われる。

- (25) ddaironyn **‘aju** ggamah-gei ‘ij-‘ess-den ‘ieisnar-‘i
 時には 黒い-ADLZ 忘れる-PAST-REC.ATTR 昔-NOM
 piercieji-gi-do handa [BRBF0265]
 広がる-NMLZ-EMPH する.IND

「時にはすっかり忘れていた昔のことが頭の中にパーッと広がることもある。」

- (26) ‘onyr mos ha-mien **‘aju** bom-ggaji gydairo du-r
 今日 NEG する-POT 春-TER そのまま 置く-ATTR
 bben ha-iss-den ges-‘ida [BRGO0352]
 BN する-PAST-REC.ATTR BN-COP.IND

「今日出来なかったら、完全に春までそのまま置いておくところだった。」

- (27) ‘ijaipir-‘i bie-‘ei nam-‘yn sur-‘yr sengjin-‘yi jan-‘ei
 PSN -NOM 瓶-ALL 残っている-ATTR お酒-ACC PSN-GEN グラス-ALL
 ddaryda mar-go haisug-‘eigei sur dai‘ieses bieng-‘yr
 そそぐ.SIM 止める-CVB PSN-DAT お酒 5,6 瓶-ACC
‘aju hanggeben-‘ei nai‘enoh-‘yra-go magha-iss-da [BRE00080]
 いっぺんに-ALL 出しておく-IMP-QUOT 言う-PAST-IND

「イジェピルが瓶に残っているお酒をソンジンのグラスにそそぐのを止めて、ヘスクにお酒の瓶を全部いっぺんに出せと言った。」

3.3. 判断が曖昧である ‘aju

程度副詞の‘aju と程度副詞ではない‘aju の判断において、その意味的判断が曖昧であった‘aju をみてみよう。用例の内訳は形容詞“daryda (異なる)”が用いられている用例が3例、否定形が用いられている形容詞句が2例である。その用例を挙げておく。

(28) gyri~~go~~ ga-nyn sigan sei‘uer-‘yi sogdo-ga **‘aju**
 そして 行く-ATTR 時間 歳月-GEN 速度-NOM

~~daryda~~ [BRBF0267]

異なる.IND

「そして過ぎていく時間、時の速度がとても / 全く異なる。」

(29) giarymha-n mosyb-‘i-rago se‘iang-‘yi ‘ergur-‘yr daibiebha-nyn
 やや細長い-ATTR 姿-COP-QUOT 西洋-GEN 顔-ACC 代弁する-ATTR

‘aju giarymha-n hieng-‘yn ‘anida [BRBD0066]

やや細長い-ATTR 形-EMPH NEG.IND

「細長い形だといっても、西洋の顔を代表するとても / 完全に細長い形ではない。」

例(28)は“daryda (異なる / 違う)”という形容詞を修飾する用例である。このような場合、‘aju は「とても異なる」のように「程度」を表したり、「全く異なる」という「状態」を表したり、程度と状態を両方表しうる。例(29)も同様に、「とても細長い形」のように「程度」を表したり、「完全に細長い形ではない」と否定の表現と共起し陳述副詞のような振る舞いをしたりする。

このように、程度と陳述の間で揺れが見られる文の特徴について詳しく考察する必要がある。今回の考察ではその用例が少なく、揺れが見られる文の特徴について考察することが出来なかった。程度と陳述の間で揺れが見られる文の特徴については今後詳しく考察していきたい。

3.4. まとめ

以上、書き言葉コーパスから収集した用例を中心に、程度副詞‘aju と程度副詞ではない‘aju の意味と統語的特徴について考察した。考察の結果を以下の表にまとめて示す。

表 2. 程度副詞‘aju」と程度副詞ではない‘aju」の意味と特徴

	程度副詞‘aju」	それ以外の‘aju」
形容詞修飾の場合	<ul style="list-style-type: none"> ・形容詞の直前に置かれ、被修飾語の程度を強くする。 ・<u>形容詞の否定形と共起できる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・用例無し
副詞修飾の場合	<ul style="list-style-type: none"> ・状態副詞、程度副詞、時間副詞を修飾する。 ・被修飾語の程度が普通より遥かに高い意味で用いられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・状態副詞、程度副詞を修飾する。 ・「完全に、全部」の意味で用いられる。
動詞修飾の場合	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>「状態性」、「結果性」がある動詞を修飾する。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の品詞に比べ、最も‘aju」の修飾を受けられる。 ・<u>「動作性」、「完了性」がある動詞を修飾し、意志を表す文末表現と共起しうる。</u>
名詞修飾の場合	<ul style="list-style-type: none"> ・時間 / 空間名詞や形容名詞を修飾する。 ・時間 / 空間名詞の場合、単独で‘aju」の修飾を受けることができるが、形容名詞の場合コピュラ文の述語形式として修飾を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用例無し。
存在詞修飾の場合	<ul style="list-style-type: none"> ・‘issda」を直接修飾することはできない。主に「抽象名詞+‘issda」の形式で‘aju」の修飾を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・‘ebsda」を修飾し、<u>断言や可能性の推測の文末表現と共起しうる。</u> ・「全く、全然」の意味で用いられる。

4. おわりに

今回の考察では、辞書の定義にあるように副詞‘aju」には「とても」のような「ある基準を遥かに越える程度」を表す程度副詞‘aju」と、「完全に、全く、全部」のようにある状態をもっと詳しく述べる状態副詞としての‘aju」があることが確認できた。また、動詞修飾においては文末のモダリティと関係があることも明らかになった。

しかし、今回の調査では、先行研究における話者の皮肉なニュアンスが含まれている‘aju」の確認はできなかったこと、また、判断が曖昧である用例の数が少なく、どのような表現で程度と陳述の間で揺れがみられるのかの考察もできなかったことなど様々な問題点が残されている。以上のことを踏まえ、今後話し言葉コーパスから用例を収集し、副詞‘aju」に関

する両面的な意味を詳しく考察していきたい。

【略語一覧】

1, 3: 1人称、3人称 / ABL: 奪格 / ACC: 対格 / ADLZ: 副詞化 / ALL: 向格 / ASP: アスペクト / ATTR: 連体形 / BN: 依存名詞 / CAUS: 使役 / CHR: 勧誘 / COM: 共格 / COND: 条件 / COP: コピュラ / CVB: 副動詞 / DAT: 与格 / EMPH: 強調 / GEN: 属格 / HON: 敬称 / IMP: 命令 / IND: 直接法 / INS: 具格 / LOC: 位格 / NEG: 否定 / NMLZ: 名詞化 / NOM: 主格 / PASS: 受身 / PAST: 過去 / PL: 複数 / POSS: 所有 / POT: 可能 / PRN: 人称代名詞 / QUOT: 引用 / REC: 回想 / SIM: 同時 / TER: 到格 / TOP: 主題 / -: 形態素境界

【参考文献】

・日本語で書かれた文献

梅田博之 (1989) 「朝鮮語」 亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典』2巻: 951-980 東京: 三省堂 / 菅野裕臣 (1981) 『朝鮮語の入門』 東京: 白水社 / 河野六郎 (1979) 『河野六郎著作集第1巻』 東京: 平凡社 / 徐尙揆 (1991) 「現代朝鮮語の程度副詞について—副詞〈아주〉の〈程度〉と〈様態〉の意味を中心に—」 『朝鮮学報』第140輯 :1-62 天理: 朝鮮学会 / 野間秀樹 (1990) 「朝鮮語の名詞分類—語彙論・文法論のために—」 『朝鮮学報』135輯 天理: 朝鮮学会: 1-59

・韓国語で書かれた文献

김영희 (1985) 「셈술말로서의 정도부사」 『한글』190 한글학회 / 남기심・고영근 (1985) 『표준국어문법론』 서울: 탑출판사 / 서상규 (1991) 「정도부사에 대한 국어학사적인 조명과 그 분류에 대해」 『연세어문』23집 연세대학교 국어국문과 / 손남익 (1995) 「국어 부사 연구」 고려대학교 대학원 국어국문학과 박사학위논문 / 유춘희 (2006) 『한국어 정도부사 연구-유의어를 중심으로』 北京: 民族出版社 / 최홍열 (2005) 『정도부사의 유의어 연구』 서울: 도서출판 역락 / 최현배 (1937) 『우리말본』 서울: 정음문화사 / 홍사만 (2002) 「국어 정도부사의 하위 분류」 『어문론총』 36호 경북어문학회

・辞書

菅野裕臣ほか共編 (1988) 『コスモス朝和辞典』 東京: 白水社 / 국립국어연구원 (1999) 『표준국어대사전』 서울: 두산동아 / 연세대학교 언어정보개발원(1998) 『연세한국어사전』 서울: 두산동아

【コーパス】

コーパス <http://kkma.snu.ac.kr> (2012/10/12)

A Consideration of Adverb “*aju*” in Korean
— From the Analysis of the Written Language Corpus —

Jihye Ahn

(Tokyo University of Foreign Studies, Ph.D Candidate)

Key words : Korean, Degree adverb, Statement adverb, Relation of Modification, Modality

ABSTRACT

The topic of this paper is to clarify the characteristic of adverb “*aju*” in Korean. Based on the data taken from a written language corpus, this paper will discuss the semantic and syntactic characteristics of degree adverb “*aju*” and statement adverb “*aju*”.

The degree adverb “*aju*” means that the degree is high. In the modification a part of speech, the degree adverb “*aju*” can modify verbs, adjectives, adverbs, nouns, and existential “*issda*”. Among its part of speech, the adjectives are the most modified of “*aju*”.

The statement adverb “*aju*” means that some movement is completely over. The statement adverb “*aju*” can modify verbs, adverbs, and existential “*esda*”. It is connected with the modality of the end of sentences. Particularly, it is co-occurred with the modality of will and presumption.